



奥田原で原子力防災訓練

島根原発の事故災害を想定した避難訓練を11月19日、奥田原地区で行い、地区住民58人が災害時の避難手順などを確認しました。

参加者は、自宅から交流センターへ徒歩で移動し、バスで30キロ圏外に避難するまでを想定した訓練を行いました。また、車で避難したときに避難地で行う車両の放射線測定や車の除染、乗車していた人の簡易除染などを見学し、原子力災害時の避難について理解を深めました。



▶放射性物質の付着を調べる検査「退域時検査」も実施。

給食にドジョウが出たよ

自校式で給食を提供している市内の小学校で11月、地元特産品の「やなぎどじょう」を使ったメニューが登場。14日の南小学校では、ランチルームに集まった全校児童が「どじょうのカレー揚げ」に舌鼓。2年生の女子児童は「ドジョウの給食は大好き。柔らかく、魚の味があまりしなくて食べやすい」と感想を話してくれました。

市では地元食材を使った給食を提供しており、また、毎月3回程度はドジョウや梨などの特産品を採り入れています。



▶途中では当番さんが食材の特色や提供者などの紹介をしていました。

学力向上のための研修会

子どもの学力向上を目指した研修会を11月16日、安来庁舎で開催し、京都大学大学院准教授・木原雅子先生が市内の教員を対象に講演しました。

研修会は年数回開催しており、今回はWYSH教育について学びました。WYSH教育とは、全ての子どもたちが自分の力で大きく羽ばたけるように応援する教育です。木原先生は「どの子も限らない可能性がある。大人が変われば子どもが変わる。私たち大人の本気にかかっている」と話しました。



▶高円宮妃殿下のご臨席中の表彰を受ける近藤市長。

地域伝統芸能大賞を受賞

伝統芸能を通じ観光や産業の振興に大きく貢献している団体等を表彰する「地域伝統芸能大賞（地域振興賞）」に安来節保存会が選ばれました。一般財団法人地域伝統芸能活用センターが平成5年から創設しているもので、今年度は同保存会を含む4団体が受賞しました。

11月4日、島根県内で開催された「日本の祭りinしまね」の開催式典の席上、安来節保存会会長の近藤市長が表彰状を受け取りました。



▶研修会の講師を務めた木原先生。